

# 教務だより

2011年9月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 夏の成功を合格への引き金にしよう！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

長い夏が終わりました。喘ぐように厳しい毎日が続きましたが、一番嬉しかったのは、無事に「夏期合宿」が終わった時でした。どの閉会式も熱い盛り上がりがありました。

東日本大震災の時、頭をよぎったのは、今年は、合宿は無理かもしれないということでしたので、参加者の減少も含めて、悲観的でした。しかし、参加者は非受験学年では多少減少傾向が見られたものの、受験学年では増加し630名を超える参加がありました。準備段階に力を注いだこともあり、内容については合宿の意義が十分に理解されていた、と同時に、一つ一つの行事の盛り上げや、生徒のやる気への配慮が随所でなされ、厳しくも楽しい学習体験に完成していたように思います。

アンケートでも97パーセント強が参加して「良かった」という評価でしたし、「あまり良くなかった」は630名中15名でした。一番びっくりしたのは、担当の先生への満足度が、「大変良かった」が70パーセントを越えていた事です。「良かった」がそれに続き「普通」と答えた生徒はわずか3名でした。小さなグループごとに一人の先生が入り、一緒に考え、一緒に目標へ向けて頑張るというスタイルが、定着したということが第一、そして、各先生方がそれを十分に理解し実践してくれたということが第二、生徒もそれをしっかり受け止めてくれたということが第三、そこで発揮される「リーダーシップ」に確信が持てたという事で、私にとっては指導の新しい段階を検証できた体験でした。

夏の盛り上がりは、必ずや受験の成功に結びつくものと思いますが、ここからは、もう一つの大きな関門があります。夏期講習や合宿は、その組み込まれたスケジュールの中で、自分が意図するしないに関わらず、「気づき」や「やる気」をもたらしてくれたと思います。ただし、それだけでは、ここからの厳しい関門はくぐり抜けることができないと思います。まずもう一度「自分の目標」を振り返ってみましょう。目標がはっきりしていない生徒は、目標をはっきりさせましょう。

そして、その目標に達成するための、「計画」を立てましょう。受験学年のみならず、非受験学年の人も、この目標意識は大切です。今の段階での目標設定で重要なのは、その目標を達成するために、今何が必要なかを理解するという事です。

簡単に言いかえると「不得意」をどう克服するのかという事と、目指す受験のレベルにどう引き上げていくのかという2つの課題があるという事です。は自分1人では、かなり難しいことです。塾の指導が大きくものをいうところともいえます。「過去問」をやるだけでなく塾の「授業」を大切にしましょう。については、本人の意志がないとどうにもならないことです。「克服したい」という気持ちさえあれば、自分でどんどんやれる部分です。では、どうやるのが一番効率がいいのか？...それは夏にやったことの「見直し」と「やり直し」です。これも、やろうと考えて「やり直しノート」を準備したり、何をやり直すかと考えてから、とまっているような人は、多分、途中で終わるか、手をつけないうちにいつの間にか月日が経ってしまって、結局やりきれないという可能性があります。なぜなら、9月からは学校も始まり、「学校行事」などにも振り回されるからです。「思い立ったらすぐやる」を励行しないと、多分やりきれないのです。すぐとりかかり、隙間を見つけながら、一つ一つ問題解決をしていくという方針で取り組みましょう。本当にひとつひとつで良いのです。

ここで朝型生活習慣が、大きくものをいう事は間違いありません。受験勉強は、決して楽しいものではありませんが、社会を生き抜いていくための「習慣」の獲得につながると考えると今一つ我慢の時と言えます。「合格の喜び」がそれに報いてくれるはずです。